

# Nyonyum 22号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



ようこそ、任地スバイリエンへ！

年末年始にかけて、任地スバイリエンにたくさんの日本人が訪問してくれました。現地の方々にも温かく迎え入れられ、カンボジアと日本の新たな『友好関係』が育まれました。

## 12/26~27 日本各地の9名の先生方が、スバイリエン高校を訪問！

JICAが主催する「教師海外研修」(12/24~29)(\*下参照)のプログラムの一環で、日本各地の9名の先生と4名のJICAスタッフが、1泊2日で、スバイリエンを訪問してくれました。スバイリエンで活動中の2名の協力隊員(職種・サッカーと小学校教育)の活動見学と、私の配属先スバイリエン高校では、教職員や代表生徒との交流プログラムが生まれ、両国の先生方・生徒にとって、好奇心に溢れ、また刺激に満ちた有意義な時間を過ごすことができました。



交流では、両国の教育活動・学校生活についての紹介がありました。カンボジアの生徒からは、「日本の学校に、制服がない学校があるのはどうして？スマートフォンの使用に決まりはあるの？どんな校則があるの？塾に通う生徒はどれくらい？」などの質問が積極的に挙がりました。

私は、協力隊活動、日本の学校とのオンライン学習の取り組みについて紹介しました。

### \*「教師海外研修」とは？

開発途上国を実際に訪問することにより、開発途上国の置かれている状況や課題、日本との関係や国際協力の実情について理解を深めること、および海外研修で得た経験を次世代を担う児童・生徒の国際理解教育・開発教育に役立てることを目的とした、先生方を対象とした研修プログラム。(JICAホームページを参照)

今回のカンボジア研修では、JICAカンボジア事務所への訪問、JICAカンボジア事務所が支援をしている教員養成大学や上水道処理施設などの視察、NGO関係者からの講話、などの様々なプログラムが組み込まれていました。

## 12/31~1/3 協力隊同期、同僚、教え子が、現地の生活を体験！

派遣前の訓練を共にした同世代の協力隊同期(任地:マダガスカル)、札幌の所属校の同僚、現役大学生の教え子が、「観光ではなく、現地の生活を体験し、交流を楽しみたい」との思いで、はるばるスバイリエンに遊びに来てくれました。日頃お世話になっている大家さん家族、大家さん妹家族、配属先の同僚などの協力を得て、交流の場をセッティング。現地の方々には、日本からの大切な友人を心から歓迎してもらい、十分に言葉が通じなくとも、笑顔が絶えない素敵な時間となりました！



隣村のクリスマスパーティーに招待してもらいました。お礼に『世界に一つだけの花』を披露、子どもたちと一緒に踊りました。



大家さん宅、同僚宅での夕食会。カンボジア流の手厚いおもてなしに、終始圧倒されながらも、楽しい時間を過ごしました!!実は、お昼も、別な場所で、歓迎の宴会をしていただきました!!友人たちは、飲み疲れ、食べ疲れでした!!



配属先で、生徒とも交流をしました。生徒にとっても、貴重な国際交流の機会となりました!!

## スパイリエン滞在の感想を聞いてみました！

同僚(高校教諭) 新ヶ江りえ さん

「JICA笑顔のためにプログラム」の制度を利用し、スパイリエン高校に、ボールを提供させていただいていました。今回、現地で、実際にボールが使われ、生徒たちの笑顔が溢れる光景に胸がいっぱいになりました。ボールの数は十分ではないかもしれませんが、その瞬間を大切に、みんなで協力して楽しんで学んでいるように見えました。またボールへの感謝の言葉もたくさんいただきました。日本のように新しいモノが当たり前に入る状況では、学べることにありがたみを感じることも、感謝の思いを伝え合うことが、あまりないのかもしれないですね。カンボジアの生徒たちの豊かな感性に触れることができました。訪問期間中には、日本では震災や飛行機の事故があり、現地の子もたちに「大丈夫？」と心配の声をかけてもらいました。ものの繋がりだけではなく、思いやる気持ちの繋がりが生まれていることもとても有難いことでした。

大学2年生(教え子) 朝倉愛葉 さん

海外に行くと、「視野が広がる」「世界が違って見える」「成長できる」という、まるで魔法のような言葉をよく聞くので、私はとても楽しみに日本を飛び出しました。カンボジアで過ごした1週間は、毎日が新しい発見と経験の連続で、まるで小さな子供の頃に帰った時のように一日がとても長く感じられました。スパイリエンで過ごした日々はカンボジアの人々の温かさや優しさ、日本人越えのおもてなし精神とカラオケ愛を目の当たりにし、どの瞬間も最高に楽しかったです。

帰国後、家族や友人に旅のあれこれについて話をしました。とても楽しくて堪りませんでした。そして、五感で感じた体験だからこそ伝えられる言葉の重みや誠実さに気づくことができました。私が体験したのは、カンボジアのほんの一部ですが、カンボジアを訪れる前の自分とは比べられないほど、魔法の言葉の通りに、自分が大きく変わったように感じています。



## 『日本語教室』・近況報告 PART 3

2023年1月19日に開設した『日本語教室』。試行錯誤を繰り返しながらも、合計66回まで開催することができました。現在、学校の授業や塾との兼ね合いから、生徒の入れ替わりもありましたが、8名の生徒が参加をしています。スタート時から学習を続けている生徒は、驚くほどの上達ぶりを見せています。



帰国後も、独学で勉強できるようにとの思いで、文字学習を再開。かるたを使って、ゲーム感覚で、ひらがなを覚えています。



昨年行った日本の高校生とのオンライン対話で、画面越しに見ていた日本の先生が、リアルに登場！大興奮でした!!!



自学で進めている文字の書き取りノート。母も、頑張ってます！



いつもワクワクの日本料理体験会。シチュー、おにぎり、お好み焼き、オムライス、豚の生姜焼き、餃子、カレー、焼き餅、白玉だんごを体験。



## 『日本語教室』は楽しいですか!?

高校2年生のロサーさんに、聞いてみました！

**Q. 日本語教室は楽しいですか？**

-はい、とても楽しいです！



**Q. どうして日本語を学ぼうと思ったのですか？**

-将来、日本に働きに行きたいと思っています。



**Q. 大作先生は、どんな先生ですか？**

-生徒と良い関係を築き、教えるのがうまく、一番良い先生で、とっても尊敬しています。  
(とっても嬉しいメッセージをありがとう!カンボジアにも教え子ができ、幸せです!!)

**Q. 日本語学習のどんなところが難しいですか？**

-文字を覚えるのが大変です。

**Q. 日本語学習のどんなところが楽しいですか？**

-オンラインで、日本の高校生と会話ができること。

**Q. 将来は、どんな仕事に就きたいですか？**

-警察官または警察事務の仕事に就きたいです。



2023年10月下旬からは、スパイリエン高校の卒業生からの要望で、彼が所属する専門学校の学生たちにも日本語を教えています。1回90分、週2回。学生のモチベーションが高く、こちらの教室も明るく楽しい雰囲気です。



## 学生への想い

「将来、日本に留学したい。就職したい」と夢見る学生がいます。実現には、多くの壁が待ち受けているでしょう。帰国のことを考えると、言葉の習得以上に、彼らのその「想い」を強く確かなものにするのが、大切な役割かなと感じています。日本語を媒介にして、新たなヒト・モノ・コトとの出会いの機会を作る。限られた時間ですが、彼らの夢の実現の後押しをしたいという想いで、日本語学習を進めています。